

保管・施工上の注意点について

弊社製品《マッドクリーン》のご使用にあたり、固化材としての効果を最大限にあげていただくために、保管方法および施工方法について重要なポイントをご説明させていただきます。

保管方法

マッドクリーンは水分に反応しますので、保管時は湿気や水に触れない場所に保管してください。現場などに一時的に保管する場合は、スノコなど 20cm 程度床上げした場所に置き、ブルーシートなどで覆って雨がつかないように保管してください。また、長期保管する場合は、湿度を管理できる倉庫などで湿度 30% 以下に設定された乾燥室に保管してください。

施工方法

1. 添加量の目安としては、建物などの基礎地盤の補強や道路の路床形成等、高強度を必要とする場合、又は含水比の高いヘドロ(100%~200%)等进行处理する場合は、重量比で 10%以上(100kg/m³以上)となります。改良土に高強度を必要としない場合、又は含水比が 80%未満の土壌进行处理する場合には、10%未満(3%~8%)の添加量で処理可能な場合もあります。(配合試験により添加量を決定してください)
2. 建物の基礎地盤補強として使用する場合や大型クレーン車の転倒防止地盤補強として使用する場合は、改良深度は 50cm 以上としてください。(50cm 未満ですと、十分な強度が得られません)
3. 攪拌は、下記の方法等により土壌と固化材が完全に混ざり合うよう充分行ってください。
 - 通常のバックホーにて混練
 - ロータリー内蔵型バケット方式
 - スタビライザー方式
 - ロータリー方式
 - 自走式土質改良機
4. 攪拌中、土壌ダマができるダマの内部には固化材が混ざらないので、バックホーで攪拌する場合は、ショベルの背でダマをすり潰すように固化材を練りこんでください。
5. 処理対象土壌の含水率が低い場合、固化反応(水和反応・ポゾラン反応)を起こすにはある程度(含水比:30%程度)の水分を必要とするので、**散水**を行って攪拌してください。
6. 処理対象土壌の含水率が 200%を超える高含水汚泥の場合、事前に対象汚泥の含水率を天日干しや脱水処理を行って可能な限り含水率を下げてください。
7. 攪拌終了後、処理地盤に強度を持たせたい場合は、ローラー等で十分転圧を行ってください。
8. 施工後、1~2日で固化し始めますが、完全に固化反応が終了するのは**約7日後**です。この養生期間中に雨が予想される場合は、ブルーシート等で覆って改良土の含水比が増加しないよう配慮してください。固化反応完了の目安は、一度乾燥状態になったら固化完了と判断できます。
9. 処理完了後は、透水性に優れ、PHは中性で植栽可能な地盤となります。

上記の各ポイントが不十分ですと、固化反応にむらがあったり、固化反応がうまく起こらなかったりすることがございますので、ご注意ください。